

第76回岩手県社会福祉大会を開催

11月26日、第76回岩手県社会福祉

大会（主催：岩手県社会福祉協議会、岩手県共同募金会、岩手県民生委員児童委員協議会）を、トーサイクラシックホール岩手（岩手県民会館）で開催しました。令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したことに伴い、4年ぶりに参加者の人数制限を設けない大会となり、社会福祉関係者等、約1,500



式典

名が参加しました。

式典では、物故社会福祉事業関係者に対し黙とうが捧げられた後、長山洋会長から「近年、人口減少が進む中、高齢者世帯や単身世帯の増加などにより、格差や貧困、孤立・孤独やひきこもり、差別や虐待などが大きな社会課題となっています。加えて8050問題やヤングケアラー、ダブルケアなど新たな課題も生じています。新型コロナウイルスの感染拡大による影響は、第5類への移行後も広く日常生活や社会経済活動に及んでおり、昨今の物価高騰等も相まって、福祉施設や福祉事業所などを始め、これまでにない幅広い社会層が深刻な経済危機に直面する状況が続いています。私たち社会福祉に携わる者は、深刻かつ複雑・多様化する県民の福祉ニーズに対応していくため、包括的かつ重層的な支援体制の構築や福祉人材の育成・確保など、更なる取組を進めていかなければなりません。本大会を契機

として、地域で暮らすすべての人々が生きがいを共に創り、高め合うことができる「地域共生社会」の実現を目指し、誰一人取り残すことのない豊かな福祉社会づくりを進めてまいります」と挨拶しました。

その後、県内社会福祉の推進に功績のあつた個人485名、16団体、1組が表彰され、被表彰者を代表して岩手県知事表彰を受けた小山尚元様が謝辞を述べられました。

続いて、講演では、社会福祉法人プロップ・ステーション 竹中ナミ理事長から「すべての人が誇りを持って生きられる社会に！」と題してお話いただきました。竹中理事長は、重症心身障がいをもつ長女を授かったことを契機に、独学で障がい児医療・福祉・教育を学び、1991年に草の根のグループとしてプロップ・ステーションを創設され、1998年には社会福祉法人格を取得して、理事長に就任されました。障がいを持つ人を、「挑戦」という使命



講演 社会福祉法人プロップ・ステーション 竹中ナミ理事長

や課題、挑戦するチャンスや資格を与えられた人」という意味の「チャレンジ」と呼ぶことを提唱し、ICTを駆使して、チャレンジの自立と社会参画、とりわけ就労の促進を支援する活動を続けています。ご自身の経験をもとにお話いただき、会場に感動と元気を与えてくださいました。

最後に、福祉関係者が心を一つにして、共に生き、共に支え合う福祉社会を実現するための共通認識を深めるとともに、更なる研さんを積みながら「地域共生社会」を実現するために取り組んでいくことを大会宣言として採択し、閉会しました。